

京都府立植物園100周年記念ロゴマーク

コンセプト

府立植物園の強み、次の未来(100年)へとつなぐ想いや方向性を表現



表現された植物

コンセプトを象徴する10種類の植物を題材に作成

- A 100年の植物園の歴史を象徴する植物
- B 培われてきた栽培技術により、国内初開花等の事例がある植物
- C 次の100年に向け植物多様性を守るため、植物保全を行っている植物
- D 京都の文化や歴史を象徴する植物

番号	名称	位置づけ	特徴	写真
①	バオバブ	B	童話星の王子様で知られる。 当園初開花は 1999 年。当時栽培ノウハウがなかったが、冬場水を切ることで人工的に乾期を作り、栽培に成功。	
②	ヒマラヤシーダー	A	開園当初から植栽。 当園の個体から日本全国の公園や植物園等に広がったと言われる。	
③	フタバアオイ	D	葵祭で使用される。 山城地域にかつて多く自生していたが環境の変化で激減している。京都府立植物園では京都市動物園に栽培指導するなど保全活動に貢献している。	
④	メコプシス・ベトニキフォリア	B	日本の平地では冷房施設であっても栽培が困難だが、当園では令和4年に初めて実生から育て、開花に成功。	
⑤	オオキンレイカ	C	京都府絶滅寸前種、指定希少野生生物。 オミナエンに似た黄色で美しい花を咲かせることから乱獲により絶滅が危惧されており、当園において京都大学と連携し、生息域外保全を実施。	
⑥	キソウテンガイ	B	終生 2 枚の葉しか出さない珍奇植物。 根を痛めると枯れるため栽培は困難だが、当園において実生繁殖(種子による繁殖)に国内で初めて成功。	
⑦	北米原産の野生ハス	B	野生種の栽培は貴重であり、特に北米原産のキバナハスは栽培が困難だが、当園では栽培に成功。 当園の野生ハスは日本植物園協会のナショナルコレクションに認定済み。	
⑧	スズカケソウ	C	園芸的には栽培されていたが長らく自生地は不明とされていた。徳島県には自生があり、岐阜県のは栽培個体が逃げ出したものと言われる。環境省レッドリスト I A 類。京都府立植物園は日本植物園協会の地域野生植物保全拠点園であり近畿地方に自生する近縁種も含め保全している。	
⑨	アリストロキア・サルバレンシス	B	花が映画スターウォーズの代表的な悪役であるダースベーダーに酷似する。 導入した 2000 年当初は国内で保有する園は当園と摂南大学薬用植物園のみ。	
⑩	ムジナモ	C	水生の食虫植物。京都府では京都市南部から宇治市、久御山町にかけてあった旧巨椋池(おぐらいけ)に自生していたが、干拓により自生地が消滅し絶滅した。京都府立植物園では地元の方が栽培していたものを譲り受け 20 年以上保全を続けている。	

開花時期等により、観賞できない場合があります。